

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4972159号
(P4972159)

(45) 発行日 平成24年7月11日 (2012. 7. 11)

(24) 登録日 平成24年4月13日 (2012. 4. 13)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 77/06 (2006. 01)	B 6 5 D 77/06 F
B 6 5 D 33/00 (2006. 01)	B 6 5 D 33/00 C
B 6 5 D 83/08 (2006. 01)	B 6 5 D 77/06 J
A 6 1 J 1/03 (2006. 01)	B 6 5 D 83/08 G
A 6 1 J 3/00 (2006. 01)	A 6 1 J 1/00 3 7 0 B
請求項の数 8 (全 10 頁) 最終頁に続く	

(21) 出願番号	特願2009-508186 (P2009-508186)	(73) 特許権者	300005035
(86) (22) 出願日	平成19年4月28日 (2007. 4. 28)		エルテーエス ローマン テラピーージス
(65) 公表番号	特表2009-536901 (P2009-536901A)		テーマ アーゲー
(43) 公表日	平成21年10月22日 (2009. 10. 22)		ドイツ連邦共和国 5 6 6 2 6 アンダーナッ
(86) 国際出願番号	PCT/EP2007/003786		ハ、ローマンシュトラッセ 2
(87) 国際公開番号	W02007/131615	(74) 代理人	100127926
(87) 国際公開日	平成19年11月22日 (2007. 11. 22)		弁理士 結田 純次
審査請求日	平成22年2月5日 (2010. 2. 5)	(74) 代理人	100105290
(31) 優先権主張番号	102006022198. 2		弁理士 三輪 昭次
(32) 優先日	平成18年5月12日 (2006. 5. 12)	(74) 代理人	100140132
(33) 優先権主張国	ドイツ (DE)		弁理士 竹林 則幸
		(74) 代理人	100091731
			弁理士 高木 千嘉
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 パウチをベースとする集積型包装

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも1つの活性物質含有製品と、少なくとも1つの一次包装及び二次包装を含む包装ユニットであり、少なくとも1つの活性物質含有製品が各々、密閉された一次包装に密封されて保管され、一次包装が二次包装の中に積重ねて並べられ、所定の仕切線によって、少なくともある領域において、切り離し可能な様に保持されている包装ユニットであって、

- － 各一次包装 (30) は、把持片 (70) を有する密封パウチ (30) であり、
 - － 個々の密封パウチ (30) は、引裂き開口領域 (47) を区切る所定の仕切り継ぎ目 (55) を有し、
 - － 把持片 (70) は、引裂き開口領域 (47) に接続され、
 - － 把持片 (70) を引っ張ることにより開けられる引裂き開口領域 (47) は、活性物質含有製品 (80) を露わにし、かつ
 - － さらに把持片 (70) を引っ張ることにより、所定の仕切線 (38) を分離すること
- を特徴とする包装ユニット。

【請求項 2】

密封パウチ (30) が、所定の仕切線 (38) から離れた方向の密封パウチ (30) の少なくとも側部で、互いに分離出来ない様に接続されている、上部包装材料 (43) と下部包装材料 (42) を有することを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 3】

活性物質含有製品（80）が、その全表面の隅々まで、露わにされることを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 4】

所定の仕切線（38）が、ミシン目（38）であることを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 5】

密封パウチ（30）が、形状的嵌め合い及び／又はプレス嵌めによって、二次包装（10）の中に確保されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 6】

密封パウチ（30）の所定の仕切り継ぎ目（55）が、分離可能な様に密封された少なくとも 1 つの横の継ぎ目（51）と、把持片（70）の引張り方向に合致しており、それらが分離可能な様に密封されている、2 つの縦の継ぎ目（52, 53）であり、該継ぎ目が製品収納部（45）を区切っていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 7】

製品収納部（45）を区切っている、密封された継ぎ目（51～53）が、少なくとも、分離出来ない密封された継ぎ目（51～53）であることを特徴とする請求項 1 に記載の包装ユニット。

【請求項 8】

上部包装材料（43）が、把持片（70）に分離出来ない様に接続されている引裂き開口片（59）を含むことを特徴とする請求項 7 に記載の包装ユニット。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、少なくとも 1 つの活性物質含有製品、少なくとも 1 つの一次包装及び二次包装を含む包装ユニットに関するものであり、少なくとも 1 つの活性物質含有製品が、各々密閉された一次包装中に密封状態で保存され、一次包装は二次包装の中に積み重ねて並べられ、そして少なくともある領域で、所定の仕切線によって、切り離し可能な様に保持されている。

【0002】

欧州特許第 1,161,375 B1 号は、この種の包装ユニットを開示している。個々の一次包装は、所定の順序で二次包装から取り出される。一次包装を取り出した後、個々の一次包装が開けられ、各活性物質含有製品が取り出される。その様なことをする時、活性物質含有製品が損傷する可能性がある。さらに、一次包装が取り出され開口しないままに放置され、そして、例えば、監視下にない子供によって開けられる可能性がある。

米国特許第 6,708,826 B1 号は、一次包装の中の活性物質含有製品の為の収容領域が、二次包装の中の一次包装を保持する継ぎ目と同一である引き裂き開口用継ぎ目を有する、包装ユニットを開示している。一次包装が引き裂き開けられる時に、製品収納部も同時に引き裂き開けられ、この製品収納部の一部が引き裂き開けられる。活性物質含有製品が容易に取り出せ無い時には、更に引き裂いてはがす、又は引き裂いて開く操作を行った後、活性物質含有製品を一次包装から引き出すことが出来る。これらのすべての引き裂き操作において、製品収納部が裂かれ始まるので、活性物質含有製品は損傷されたり、落ちたりする可能性がある。

【0003】

それゆえ、本発明の目的は、活性物質含有製品が子供にとって安全な方法で、包装されており、かつ損傷される格別の恐れなしに容易に取り出しが出来る、包装ユニットを開発することである。

【0004】

この目的は、主クレームの特性により達成される。この為に、各一次包装は把持片の付いた密封パウチである。個々の密封パウチは、引裂き開口領域を区切る所定の仕切り継ぎ

10

20

30

40

50

目を有する。把持片は、引裂き開口領域に繋がっている。把持片を引っ張ることにより開けられる引裂き開口領域は、活性物質含有製品を見える様にする。さらに把持片を引っ張ることにより、所定の仕切線が分離される。

【0005】

それ故、活性物質含有製品を取り出す為に、二次包装の中に保管されている個々の一次包装を引き裂き開口する必要がある。その時のみ、一次包装は二次包装から分離出来る。一次包装が二次包装から未開口で取り出され、二次包装の外部に保管されるという意味では、子供にとっての安全は回避出来ない。

【0006】

本発明の更なる詳細は、従属クレームにおいて及び概略的に説明された実施例についての以下の記述において示されている。

10

【0007】

図1は、包装ユニット(1)を示す。包装ユニットは、活性物質含有製品(80)入りの一次包装(30)が二次包装の中に積重ねられて、並べられている集積型の包装(1)である。

【0008】

二次包装(10)は、例えば、立方形の箱である。それは、例えば、筐体(11)及び折畳み一開き蓋(12)を含む。この実施例では、蓋(12)はフィルムヒンジ(13)により筐体(11)に接続されている。蓋(12)は、スライディング式の蓋、取り外し可能な蓋、等として設計することも出来る。この二次包装(10)の閉鎖部は、例えば、子供にとって安全な機構(ここには示されていない)を有する。例えば、箱(10)の角部や端部は丸められている。例えば、蓋(12)が閉められていると、箱(10)は異物の侵入に対して、実質的に密封される。適切な場合には、箱(10)を少なくとも保管中密封する為に、蓋(12)上に、及び／又は筐体(11)上に、付加的な密閉用要素を取付けることが出来る。

20

【0009】

一次包装(30)の積重ね(20)が、箱(10)の内部(15)に、切り離し可能な様に保持されている。一次包装(30)は、例えば、密封する様に、かつ臭気が透過しない方法で密封され、各々が把持片(70)を有する密封パウチ(30)である。パウチ(30)は、2つの止め具(14)により箱(10)の中に固定されている。止め具(14)は、パウチ(30)の外側端部(62)から十分な距離にある2つの貫通孔(41)を

30

【0010】

通って、パウチ(30)を貫いて伸びている。示されている2つの止め具(14)の代わりに、箱(10)の中にパウチ(30)を固定する為に、単一の止め具、クリップなどを備えることも出来る。他の種類の、プレス嵌め及び／又は形状的嵌め合いによる保持もあり得る。図1に示す集積型の包装(1)では、例えば、6つの一次包装(31~36)が提供される。パウチ(31)は積重ね(20)の最も上のパウチであり、一方、パウチ(36)は、積み重ねられたパウチ(31~36)の最も下のものである。

40

【0011】

各一次包装(31~36)には、例えば、きっちりと1つの活性物質含有製品(80)が入っている；図2参照。活性物質含有製品(80)は、例えば、薄く、曲がりやすい単層又は多層の薄板である。これらには、経皮治療システム、ウエハース、芳香錠剤、指示薬片、又は指示薬錠剤などがあり得る。これらは、例えば、密封された一次包装(30)を必要とする、容易に蒸発しやすい作用物質を含んでいる。活性物質含有製品(80)はパウチ(30)の製品収納部(45)にある。これらの製品収納部(45)は、その中に置かれた錠剤(80)より大きい。別の活性物質含有製品(80)は、適切な識別表示を付けて、集積型の包装(1)の個々のパウチ(30)に、納めることも出来る。又、数個の活性物質含有製品(80)を1つのパウチ(30)の中に並べることもあり得る。

50

(web)から造られたガス不透過性のプラスチックフィルムである。包装材料(42, 43)は、例えば、臭気、水及び／又は酸素に対して不透過性である様に設計されている。個々のパウチ(30)は、止め具(14)の周りでかみ合っている保持領域(37)と、活性物質含有製品(80)を有する製品収納部(45)を含む収容領域(39)とを有する。この2つの領域(37, 39)は、所定の仕切線(38)、即ちミシン目で、互いに接続されている。このミシン目(38)は、箱(10)からパウチ(30)の取り出し(5)方向に対して、直角方向となっている。ミシン目(38)として設計される代わりに、所定の仕切線(38)は、レーザー、パンチング、引掻き等による切り込みによって作成することも出来る。

【0012】

10

図1及び2に示す密封パウチ(30)は、それぞれ、下部包装材料(42)、上部包装材料(43)及び把持片(70)で構成されている。上部包装材料(43)と下部包装材料(42)は非対称に折畳まれた、長方形の包装材料ウェブ(web)(44)の部分形成している。ここで、下部包装材料(42)は、上部包装材料(43)より長い。下部包装材料(42)は保持領域(37)と所定の仕切線(38)を含む。上部包装材料(43)と下部包装材料(42)とを互いに切り離すことが出来ない様に接続している折畳み部(46)は、保持領域(37)から離れた方向にあるパウチ(30)の端にある。

【0013】

上部包装材料(43)と下部包装材料(42)は、例えば、4箇所の切り離し可能な密封された継ぎ目(51~54)で一緒に密封されている。ここで、2箇所の縦の継ぎ目(52, 53)は、製品収納部(45)の2箇所の縦側部を区切り、2箇所の横の継ぎ目(51, 54)は、製品収納部の横側部を区切る。4箇所の端部を密封したパウチとして設計される代わりに、このパウチ(30)は、3箇所の端部を密封したパウチとして設計することも可能であり、この場合、折畳み部(46)にある横の継ぎ目(54)は省略される。この様にして、パウチ(30)はより短くすることが出来る。上部包装材料(43)が、保持領域(37)と収容領域(39)との双方において、下部包装材料(42)に接続されるように、もう一方の横の継ぎ目(51)は所定の仕切線(38)をカバーすることが出来る；図3参照。積重ねられた個々のパウチ(31~36)は、保持領域(37)で互いに接続が出来る。

20

【0014】

30

上部包装材料(43)と下部包装材料(42)が折畳み部(46)によって接続されない様に、4箇所の端部を密封したパウチ(30)を設計することも出来る。この時、横の継ぎ目(51)と縦の継ぎ目(52, 53)は分離可能な継ぎ目として設計され、一方、横の継ぎ目(54)は分離できない継ぎ目である。

【0015】

この実施例では、把持片(70)は、横の継ぎ目(71)にて上部包装材料(43)の上に、切り離し出来ない様に密封されている。把持片(70)は、包装材料ウェブ(web)(44)の一部分であり得るし、例えば、上部包装材料(43)を二重にすることによって作成することも出来る。上部包装材料(43)の上に密封し、二重にすることもあり得る；図11参照。実施例の把持片(70)は、例えば、包装材料(42, 43)の半分の厚みであるプラスチックフィルムで構成されている。しかしながら、それは、包装材料(42, 43)と同一物質から作成することも出来る。把持片(70)の長さは、例えば、上部包装材料(43)の長さの3分の2である。横の継ぎ目(71)又は上部包装材料(43)と把持片(70)の間の折畳み部は、所定の仕切線(38)に重なることが出来る。

40

【0016】

活性物質含有製品(80)を取除こうとする時、蓋(12)が先ず開けられる。使用者には、パウチ(30)の積重ね(20)や、見えている一番上のパウチ(31)の把持片(70)が見える。密封された継ぎ目(51)の領域は、箱(10)の中に完全に隠されている。

50

【0017】

活性物質含有製品（80）を取除くことについて、図3～6を参照しながら以下に説明する。これらの図では、剥がして開けるパウチ（31～36）の積重ね（20）は、二次包装（10）無しで示されている。ここで、積重ね（20）が、図3では図4～6に比べると拡大されて示されている。図3～6に示された、3箇所の側部が密封されたパウチ（31～36）は、単一の包装材料ウェブ(web)（44）で各々作成されている。上部包装材料（43）は、折畳み部（46）で下部包装材料（42）と隣り合っている。把持片（70）は、最初は上部包装材料（43）の上にあり、図3参照、もう1つの横の折畳み部（74）によって、切り離し出来ない様に上部包装材料に接続されている。上部包装材料（43）は所定の仕切線（38）に重なっている。

10

【0018】

上部包装材料（43）と下部包装材料（42）は、2つの縦の継ぎ目（52，53）と横の継ぎ目（51）によって互いに接続されている；図4参照。これらの継ぎ目（51～53）はすべて、分離することが出来る密封された継ぎ目である。縦の継ぎ目（52，53）は、状況に応じて窪んでいる製品収納部（45）の両側に並んでいる。横の継ぎ目（51）は、所定の仕切線（38）の両側にあり、保持領域（37）の部分と、収容領域（39）の部分をカバーしている。適切な場合には、折畳み部（74）に隣接して、且つそれに平行の狭い帯状片として設計された把持片（70）の領域は、上部包装材料（43）上に、切り離し可能な様に密封することも出来る。この様に、箱（10）を保管している間、把持片（70）の位置は固定されている。この継ぎ目を切り離すのに、極く僅かの力しか必要としない。

20

【0019】

一番上の、剥して開口されるパウチ（31）を開ける為に、使用者は、例えば、刻み込まれた矢印（75）の方向に把持片（70）を引っ張る。箱（10）の設計次第であるが、急な、又は浅い引っ張り角度で、使用者は、把持片（70）を引っ張ることが出来る。把持片（70）と上部包装材料（43）との間の、状況に応じて存在する継ぎ目又は接着領域が最初に分離される。更に引っ張ると、所定の仕切り継ぎ目（55）に沿って、上部包装材料（43）が下部包装材料（42）から引き剥がされる；図4参照。この実施例では、所定の仕切り継ぎ目（55）は、切離し可能な密封された継ぎ目（51～53）を含んでいる。これにより、剥して開口されるパウチ（31）の引裂き開口領域（47）が区切られている。ここで、所定の仕切線（38）と重なっている横の継ぎ目（51）は、剥して開口されるパウチ（31）が閉じられている時に、ミシン目（38）が分離されるのを防止している。上部包装材料（43）が引っ張られるに連れて、剥して開口されるパウチ（30）の引裂き開口領域（47）が開かれる。その全表面の領域上に、活性物質含有製品（80）が露わになる。この時点で、活性物質含有製品は、容易に指で掴むことができ、次に、製品収納部（45）から取除くことが出来る。ここにおいて、薄く、柔らかい板（80）が、その厚みが1mmの十分の一の数倍しかない場合でも、損傷する危険性はない。

30

【0020】

更に把持片（70）を引っ張ると、この時点では空である、剥して開口されるパウチ（31）が今度は引き伸ばされる；図5参照。ここで、引裂き開口領域（47）が完全に開かれる。分離可能な密封された継ぎ目（51～53）は分離される。

40

【0021】

活性物質含有製品（80）が取除かれた後、箱（10）を閉める為に、空のパウチ（31）がまず取り除かれねばならない。この為に、例えば把持片（70）を引っ張ることによって、ミシン目（38）が分離される；図6参照。横の継ぎ目（51）によって形成される保持領域（56）は既に分離されているので、ミシン目（38）を離すのに必要な力は、例えば、3箇所の端部を密封したパウチ（31）を引き剥がす為の力と同じである。この段階では、空の、開かれたパウチ（31）は廃棄処分してしまうことが出来る。使用者には、次の、把持片（70）の付いた閉じられたパウチ（32）が、箱（10）の中に

50

見える。

【0022】

子供にとって安全なものである箱（10）は、例えば、ここで再び閉じて、安全な場所に保管することが出来る。例えば、次の投薬量を取り出す為に、箱（10）が開けられている時に、使用者は次の把持片（70）を使い、次のパウチ（32）を剥して開ける。

【0023】

適切な場合には、開けられたパウチ（31）が引きちぎられた後にのみ、活性物質含有製品（80）を、製品収納部（45）から取り出すことも可能である。この為に、パウチ（31）を引きちぎる時に、活性物質含有製品（80）が外に落ちるのを防止する、安全な端部を、製品収納部（45）が有することができる。

10

【0024】

この包装ユニット（1）により、活性物質含有製品（80）を安全に、損傷無く取り出すことができる。開けられたパウチ（30）のみが、二次包装（10）から取り出し出来る。これによって、どのパウチ（30）も“予備”として取っておき、そして、その後で、例えば、子供が近づきやすい場所に保管しておくことはなくなることが確実である。

【0025】

図7～10において、引き裂き開口型のパウチの形状の4箇所の端部が密封されているパウチ（30）は、活性物質含有製品の為に一次包装（30）として図示されている。図7において、パウチ（31～36）の積重ね（20）は、図8～10と比べると、拡大して示されている。これらのパウチ（31～36）もそれぞれ、上部包装材料（43）と下部包装材料（42）から成っている。これらの2つの包装材料（42，43）は、製品収納部（45）を区切っている、2つの縦の継ぎ目（52，53）と2つの横の継ぎ目（51，54）で互いに接続されている；図2参照。これらの密封された継ぎ目（51～54）は剥すことは不可能であり、それ故、分離することは出来ない。図7～10に示す密封パウチ（30）は、3箇所の端部が密封パウチ（30）としても設計することが出来る。この場合、上部包装材料（43）は、例えば、折畳み部（46）によって、切り離しは出来ない様に、下部包装材料（42）と接続されている。

20

【0026】

上部包装材料（43）は、線（65）に沿って機械的に弱くしてある；図7参照。この線（65）は、3つの部分（66～68）から成っている。互いに平行な、2つの部分（66，68）は、例えば、製品収納部（45）の縦の区切りと一直線をなしており、把持片（70）上の矢印（75）の方向に、横の継ぎ目（54）まで導かれている。この線（65）のもう1つの部分（67）が、これらの線の2つの部分（66，68）を繋いでいる。それは、保持領域（37）の方向を向いた先端（67）を形成している。この先端（67）は、製品収納部（45）と保持領域（37）の間にある。この線（65）によって囲まれた領域内では、上部包装材料（43）と下部包装材料（42）とは一体に密封されていない。機械的に弱める方法は、例えば、レーザーにより作られる切込みである。パウチ（30）のシーリングの役割を持つ、包装材料（43）の下層を損傷することなく、包装材料（43）の上層がこのように取除かれる。線（65）により区切られる包装材料（43）の領域は、以下では切り裂き開口片（59）と呼ばれる。

30

40

【0027】

カバー片（61）は、切り離しは出来ない様に、切り裂き開口片（59）の上に部分的に密封されている。カバー片（61）は、切り裂き開口片（59）に重なっており、例えば、密封された継ぎ目（52，53）の幅の半分の幅だけ、両方の縦の側部に突き出ている。その長さは、例えば、上部包装材料（43）の長さに対応している。保持領域（37）の方向を向いているその端部にて、カバー片（61）の上には、例えば、分離出来ない密封された継ぎ目（71）により、把持片（70）が密封されている；図11参照。把持片（70）を形成する為に、カバー片（61）は、保持領域（37）を向いた側に折畳むことも出来る。こ実施例においても、パウチ（30）を取り出す方向（5）を特定する為に、把持片（70）には印（75）が付けられている。把持片（70）は、継ぎ目によ

50

て、又は接着領域によって、カバー片（６１）に更に接続させることが出来る。

【００２８】

図３～６に示されるパウチ（３１）の開け方に類似の方法で、最初のパウチ（３１）は開けられる。把持片（７０）を、矢印（７５）によって指示されている方向に指で引っ張る。そうすることで、把持片（７０）は、それと一緒にカバー片（６１）を引っ張る。カバー片（６１）は順々に、先端（６７）から始まり、線（６５）によって印をつけられた所定の仕切り継ぎ目（５５）に沿って、切り裂き開口片（５９）を、上部包装材料（４３）から引き離す。ここで開けられた引裂き開口領域（４７）によって、製品収納部（４５）にある活性物質含有製品（８０）の全表面が、ここで露わにされる；図８参照。この段階で、活性物質含有製品（８０）を、損傷なしで取り出すことが出来る。この実施例において、例えば、保持領域（３７）上にカバー片（６１）を分離出来る様に密封することによって、所定の仕切線（３８）を更に保護することが出来る；図１２参照。

10

【００２９】

さらに把持片（７０）を引っ張ると、開口片（５９）は線（６５）の終端まで引き裂き開かれる。横の継ぎ目（５４）により、さらに引き裂き開かれてしまうのは防止される。この後、引張り力はミシン目（３８）に伝えられる。この段階で空になっているパウチ（３１）は、例えば、短く、力強く引っ張ることによって、ミシン目（３８）に沿って引き裂き開かれる。最初に開けられたパウチ（３１）が取り出された後、それぞれが活性物質含有製品（８０）を保有している、未開口のパウチ（３２～３６）のみが、箱（１０）に残される。これらのパウチ（３２～３６）は、同様のやり方により取り出すことが出来る。

20

【００３０】

この様に、箱（１０）の外には未開口のパウチ（３０）があり得ないのが確かになっている。

【００３１】

把持片（７０）は、所定の仕切線（３８）とカバー片（６１）の双方をカバーする様に設計することも出来る；図１３参照。把持片（７０）が引っ張られた時、所定の仕切り継ぎ目（５５）は開けられ、所定の仕切線（３８）が露わにされる。

【図面の簡単な説明】

【００３２】

30

【図１】包装ユニットを示す。

【図２】図１のパウチの積重ねを示す。

【図３】密閉されている一次包装の積重ねを示す。

【図４】開けられた一次包装を有する積重ねを示す。

【図５】活性物質含有製品を取り出した後の積重ねを示す。

【図６】分離された一次包装を有する積重ねを示す。

【図７】４箇所の端部が密封されたパウチの積重ねを示す。

【図８】開けられた一次包装を有する、図７の積重ねを示す。

【図９】活性物質含有製品を取り出した後の、図７の積重ねを示す。

【図１０】分離された一次包装を有する、図７の積重ねを示す。

40

【図１１】折り畳まれた把持片を有する、図２の積重ねを示す。

【図１２】所定の仕切線を保持している、図７の積重ねを示す。

【図１３】所定の仕切線と所定の仕切り継ぎ目を保持する把持片を有する、図７の積重ねを示す。

【符号の説明】

【００３３】

- １ 包装ユニット、集積型包装
- ５ 取り出し方向
- １０ 二次包装、容器、箱
- １１ 筐体

50

1 2	蓋	
1 3	フィルムヒンジ	
1 4	止め具	
1 5	内部	
2 0	積重ね	
3 0	一次包装、密封パウチ	
3 1 ~ 3 6	一次包装、密封パウチ	
3 7	保持領域	
3 8	所定の仕切線、ミシン目	
3 9	収容領域	10
4 1	貫通孔	
4 2	下部包装材料	
4 3	上部包装材料	
4 4	包装材料ウェブ(web)	
4 5	製品収納部	
4 6	折畳み部	
4 7	引裂き開口領域	
4 9	(4 3) の端	
5 1	密封された継ぎ目、横の継ぎ目	
5 2	密封された継ぎ目、縦の継ぎ目	20
5 3	密封された継ぎ目、縦の継ぎ目	
5 4	密封された継ぎ目、横の継ぎ目	
5 5	所定の仕切り継ぎ目	
5 6	保持領域	
5 9	開口片	
6 1	カバー片	
6 2	外側端部	
6 5	線	
6 6	(6 5) の部分	
6 7	(6 5) の部分、先端	30
6 8	(6 5) の部分	
7 0	把持片	
7 1	横の継ぎ目	
7 4	折畳み部	
7 5	印、矢印	
8 0	活性物質含有製品、ウエハース	

【図 1】

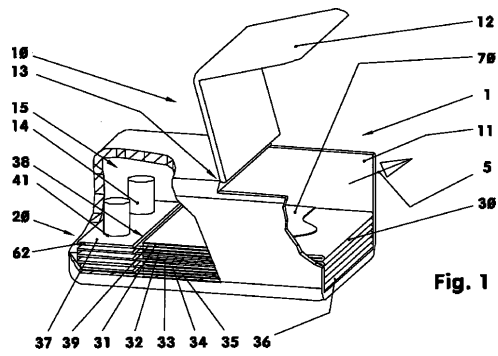


Fig. 1

【図 2】

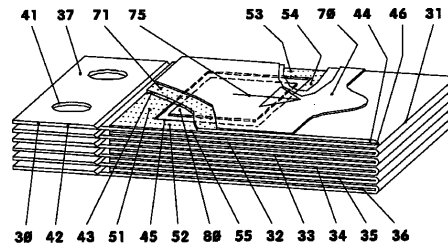


Fig. 2

【図 3】

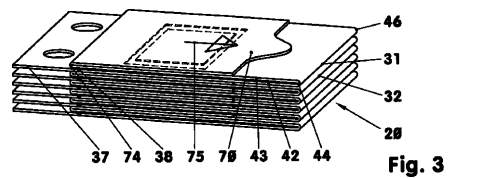


Fig. 3

【図 8】

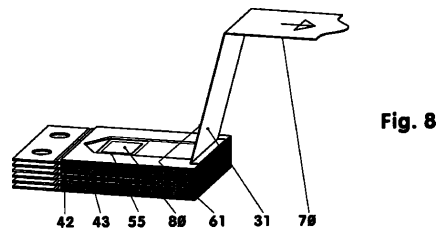


Fig. 8

【図 9】

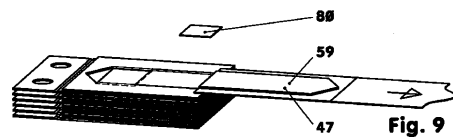


Fig. 9

【図 10】

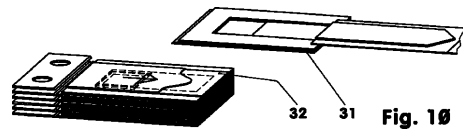


Fig. 10

【図 4】

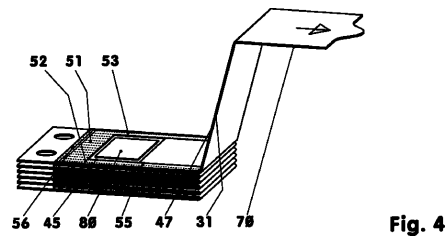


Fig. 4

【図 5】

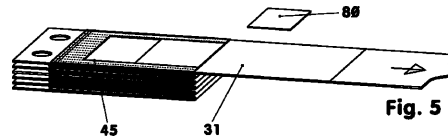


Fig. 5

【図 6】

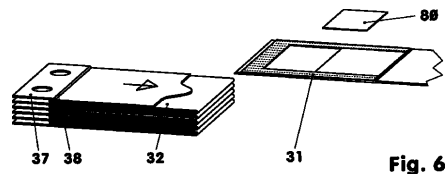


Fig. 6

【図 7】

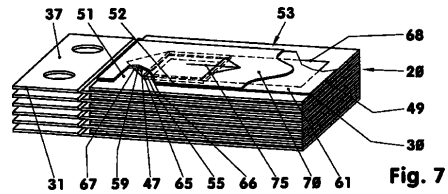


Fig. 7

【図 11】

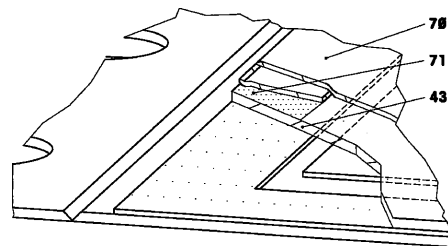


Fig. 11

【図 12】

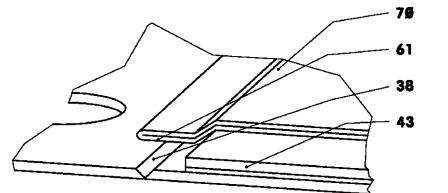


Fig. 12

【図 13】

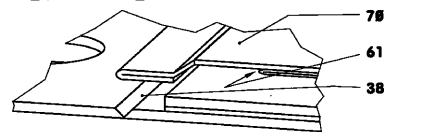


Fig. 13

フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
A 6 1 J 3/00 3 0 0 C

(72)発明者 ローナルト・ハックバルト
ドイツ連邦共和国 5 6 0 7 5 コーブレンツ、アウスティンシュトラッセ 7 2

審査官 豊島 唯

(56)参考文献 特開昭 5 4 - 1 5 6 7 9 6 (J P, A)
米国特許第 6 7 0 8 8 2 6 (U S, B 1)
特開 2 0 0 5 - 1 1 2 4 4 1 (J P, A)
実開昭 5 7 - 1 8 3 2 6 5 (J P, U)
実開昭 5 2 - 4 4 1 1 4 (J P, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., D B名)

B65D 77/06
A61J 1/03
A61J 3/00
B65D 33/00
B65D 83/08